

第31回 全日本自閉症支援者協会 研究大会(新潟大会)
開催要項

1. 大会趣旨

『地域社会との共生を考える』

私たちは、1987年に「自閉症者の人権と生きるための発達保障、自立、社会参加の実践と研究の推進」を目的として結成され、福祉制度の谷間にある自閉症の人たちの支援を先駆的に実践してきました。障害者の差別禁止と合理的配慮の義務が求められるなか、平成28年7月に起きた非人道的な事件は、記憶にあたらしく、忘れることはできません。

あの悲惨な事件から1年、今こそ本大会では、「共生」をテーマに、支援者として自閉症の方々が豊かに暮らせる社会、障害のある人たちと共に生きる社会の実現のために、私たちは何ができるのか、今何をすべきなのか、をいま一度考えていきたいと思えます。

2. 主催 一般社団法人 全日本自閉症支援者協会
開催担当 全日本自閉症支援者協会 北信越ブロック施設
ウォーム・ワークやぶなみ うさか寮 やねのうえのガチョウ 作業センター-ふじなみ
はぎの郷 ジョブスタジオノーム すだちの家 支援センター-すだち 白樺の家
あおぞら 親愛の里松川
主管 社会福祉法人新潟太陽福祉会 太陽の村
3. 後援(予定) 新潟県 新潟市 一般社団法人日本自閉症協会 新潟自閉症協会連合会
認定NPO法人にいがた・オーティズム 公益財団法人日本知的障害者福祉協会
新潟県知的障害者福祉協会 学校法人新潟総合学園新潟医療福祉大学
公益財団法人真柄福祉財団
4. 期日 平成29年11月1日(水)~2日(木)
5. 会場 ANA クラウンプラザホテル新潟
〒950-8531 新潟県新潟市中央区万代5-11-20 TEL025-245-3334
<http://www.anacrowneplaza-niigata.jp>
6. 参加対象者 全日本自閉症支援者協会会員施設職員
知的障害者関係施設職員 家族(保護者) その他関係機関職員
7. 参加費 両日参加 会員7,000円 非会員8,000円
1日のみ 会員4,000円 非会員5,000円
情報交換会 8,500円
8. 大会事務局 〒950-3112 新潟県新潟市北区太夫浜 675 番地
社会福祉法人 新潟太陽福祉会 太陽の村 担当 菊地(キクチ)・細井(ホソイ)
TEL025-258-6337 FAX025-258-6338 E-mail: a-convention@niigata-taiyo.com

9. 日程

時間	1日目(11月1日)	時間	2日目(11月2日)
9:00	実行委員会集合	9:00	受付
		9:30	シンポジウム 『地域社会との共生を考える』 【シンポジスト】 勝部 真一郎 氏 (萩の杜) 斉藤 喜美夫 氏 (てらん広場第二) 熊本 葉一 氏 (いわて発達障がいサポートセンターええ町づくり隊) 【助言者】 松山 茂樹 氏 新潟医療福祉大学 教授 【コーディネーター】 全日本自閉症支援者協会 会長 松上 利男
12:00	受付開始	11:30	閉会式
		12:00	昼食
13:00	開会式 主催者挨拶 来賓挨拶 他	13:00	分科会 ・第1分科会 「自閉症支援の魅力～なぜ、今、自閉症支援なのか」 担当施設【はぎの郷(石川)】 ・第2分科会 「施設と地域が連携した日中活動の支援と地域への貢献」 担当施設【すだちの家(福井)】 ・第3分科会 「地域生活における課題とその取組」 担当施設【親愛の里松川(長野)】 ・第4分科会 「自閉症児の児童期の支援について考える」 担当施設【太陽の村(新潟)】 ・第5分科会 「自閉症者支援の人材育成・定着を考える」 担当施設【めひの野園(富山)】
13:30	行政説明 厚生労働省 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏		
14:30	基調講演 1 「自閉症の方々の社会適応と家族支援プログラムについて」 鳥取大学大学院医学系研究科 臨床心理士 専門行動療法士 井上 雅彦 氏		
16:00	休憩		
16:10	基調講演 2 「自閉症のある人とのコミュニケーションを考える」 香川大学教育学部 特別支援教育 言語聴覚士 坂井 聡 氏		
17:40	連絡伝達		
18:40	情報交換会	16:00	終了

10.大会概要

◆11/1(水) 第1日目

行政説明 13:30~14:20
日誌 正文 氏 厚生労働省 社会・救護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官

基調講演 14:30~16:00
「自閉症の方々の社会適応と家族支援プログラムについて」 《講師》 井上 雅彦 氏 鳥取大学大学院医学系研究科 臨床心理士 専門行動療法士

基調講演 16:10~17:40
「自閉症のある人とのコミュニケーションを考える」 《講師》 坂井 聡 氏 香川大学教育学部特別支援教育 言語聴覚士

◆11/2(木) 第2日目 午前

シンポジウム 9:30~11:30
テーマ:「地域社会との共生を考える」 《シンポジスト》 ・勝部 真一郎 氏 (社会福祉法人北摂杉の子会 萩の杜) 「利用者の権利擁護と虐待防止」 ・斉藤 喜美夫 氏 (社会福祉法人同愛会 てらん広場第二) 「障害者差別と反対運動から学んだこと」 ・熊本 葉一 氏 (特定非営利活動法人いわて発達障がいサポートセンターええ町づくり隊) 「自閉症児者が自立して暮らせる町づくり」 《コーディネーター》 ・松上 利男 氏 全日本自閉症支援者協会 会長 《助言者》 ・松山 茂樹 氏 新潟医療福祉大学 社会福祉学部教授

◆11/2(木) 第2日目 午後

第1分科会 「自閉症支援の魅力～何故、今、自閉症支援なのか」
担当施設 はぎの郷(石川)

【分科会主旨】

カナーの論文に始まる「自閉症研究」「取組み」は既に70年余が経つ。日本で本格的に自閉症支援活動が親の会で始まってから約50年。当時福祉の蚊帳の外で全く支援の手が差し伸べられていなかった「自閉症」が、今メディアでも積極的に取り上げられ、広く知れ渡ってきていることは喜ばしいことだ。しかし、支援の手、社会の配慮は、それに伴って手厚く、もしくは優しくなってきたのだろうか？ 発達障害の中でも一部の人にだけスポットがあたって、私達が長年支えてきた、知的な障害に行動障害を併せ持つ、生きにくさ満載の人たちは、依然人知れず献身的な職員の支えによって生きていると言っても過言ではない。今なぜ、自閉症、発達障害にこれほどに注目が集まるのだろうか？ 私たちは、自閉症支援の何処に魅かれているのだろうか？ 自分たちの想いをぶつけあってみて、そこから見えてくる「自閉症支援」の魅力と難しさを掘り下げてみたい。

【タイムスケジュール】

13:00～13:10	開会・分科会趣旨の確認と進行について
13:10～13:40	基礎講義Ⅰ（30）「自閉症支援(置かれてきた環境)の歴史」
13:40～14:10	基礎講義Ⅱ（30）「発達障害・自閉スペクトラム症の特性」
14:10～14:20	休憩（10）
14:20～14:50	実践発表Ⅰ（30）「自閉症の人たちが、私たちに教えてくれること」(仮)
14:50～15:20	実践発表Ⅱ（30）「自閉症支援の魅力」(仮)
15:20～16:00	討論会とまとめ（40）

・基礎講義Ⅰ	五十嵐 康郎 氏 (萌葱の里 理事長)
・基礎講義Ⅱ	水野 成 氏 (ジョブスタジオノーム 施設長)
・実践発表Ⅰ	辰野 聡則 氏 (はぎの郷 主任支援員)
・実践発表Ⅱ	藤崎 進 氏 (しもふさ学園 副園長)
・助言者	五十嵐 康郎 氏 (萌葱の里 理事長)
・進行	袖野 完 氏 (はぎの郷 施設長)

第2分科会 「施設と地域が連携した日中活動の支援と地域への貢献」
担当施設 すだちの家(福井)

【分科会主旨】

近年、社会福祉法人改革として、地域社会に貢献する取り組みや社会福祉充実計画等、社会福祉施設の地域への役割が重視されている。しかし、どのようなことをすればよいのか具体的なことはあまり理解されていない様に思う。地域の中の施設として利用者の活動は生活の場である施設の中がほとんどであり、地域での活動は散歩や催し物の参加などがあるかと思うが、関わりとしては薄いように思われる。施設は地域の社会資源であり、利用者は地域の住人であることから地域の人との関わり、支援を共に支えあう活動が大切ではないだろうか。例えば、地域と施設が連携し、地域の人たちと利用者が共に継続した取り組みを行ったり、地域の活性化の一環としての活動や、地域との防災活動の取り組みなどを紹介しながら、地域へのアプローチの仕方、どのように進めてきたのか、どのような困難があったのか、失敗談や、それをどう乗り越え実現できたのか、あるいは何が問題で実現に至っていないのかを発表してもらい、今後の地域との連携を地域貢献、充実化計画も踏まえながら利用者の地域参加と福祉施設の

地域への役割について、どのように対応すればよいかを考えてみたい。

【タイムスケジュール】

13:00～13:10	開会・分科会趣旨の確認と進行について
13:10～13:40	実践発表Ⅰ(30)「三気の里における地域とのつながり」
13:40～14:10	実践発表Ⅱ(30)「地域の中での余暇支援」(仮)
14:10～14:20	休憩(10)
14:20～14:50	実践発表Ⅲ(30)「地域と施設の共存共生を考える」(仮)
14:50～15:50	助言者コメント・質疑応答
15:50～16:00	閉会・まとめ

・実践発表Ⅰ	森田 康之 氏 (三気の里 リーダー支援員)
・実践発表Ⅱ	有木 伸治 氏 (杉の郷 主任)
・実践発表Ⅲ	中村 藍 氏、加藤 雅由 氏 (すだちの家 支援員)
・助言者	坂井 聡 氏 (香川大学 教授)
・進行	萩原 大貴 氏 (すだちの家 副施設長)

第3分科会 「地域生活における課題とその取組」
担当施設 親愛の里松川(長野)

【分科会主旨】

障害者福祉の流れでは現在、第4期障害福祉計画で、基本的理念は障害者等の自己決定の尊重と意思決定の支援、入所等から地域生活へ移行、地域生活の継続の支援等、障害者の地域生活を支援するためのサービス基盤整備等が目的とされている。しかし一口に地域といっても、それぞれの地域特性、社会資源も多様であり、それらといかに協同して事業化していくかは複雑で、取り組みも様々なものになっている。この分科会では、グループホームで自閉症者がその人らしく、安心して地域で暮らしていくには、どのようなサービス、支援を構築すればよいのか、地域との関わりを報告しながら、また合理的配慮を合わせて考えていきたい。

【タイムスケジュール】

13:00～13:10	開会・分科会趣旨の確認と進行について
13:10～13:50	実践発表Ⅰ(40)「地域で暮らすには」
13:50～14:30	実践発表Ⅱ(40)「地域生活について」
14:30～14:45	休憩(15)
14:45～15:50	助言者コメント・質疑応答
15:50～16:00	閉会・まとめ

・実践発表Ⅰ	渡辺 昭一 氏 (グループホーム鶴山 サービス管理責任者)
・実践発表Ⅱ	池田 和行 氏 (あおぞら地域支援部 部長)
・助言者	野口 直樹 氏 (のぞみの郷高社 施設長)
・進行	佐々木 康成 氏 (親愛の里松川 施設長)

第4分科会 「自閉症児の児童期の支援について考える」
担当施設 太陽の村(新潟)

【分科会主旨】

昨年に引き続き、成人期に大きく影響を与えるであろう、児童期にスポットを当て、成人してからも住み慣れた地域で暮らし続けていくために必要な支援について考えていきたい。

本分科会では、児童期の支援を考えるにあたり、特にコミュニケーション支援について深く考えたい。障害の有無に関わらず人間にとってコミュニケーションは生得的な欲求の一つと考える。

コミュニケーションに障害のある人は、家庭で、学校で、各福祉事業所で困り、地域での生活が困難になっていく場合が存在し、そんなケースを我々は多く経験してきた。相手の気持ちを受け止める、自分の気持ちを伝える事で困り、行動障害が表出してから関わるのではなく、児童期・幼児期にその人にあったコミュニケーションを学ぶ事が重要と考え、本機会に深く議論したい。

また、児童期における支援について大切なこと、必要な内容は何かをあわせて議論したいと考える。

【タイムスケジュール】

13:00～13:10	開会・分科会趣旨の確認と進行について
13:10～14:00	基礎講義(50) 「児童期の支援 ～子どもの安心と自己理解をめざして～」
13:50～14:30	実践発表Ⅰ(30)「さんりんしゃで大切にしているコミュニケーション支援～幼児期～」
14:30～15:00	実践発表Ⅱ(30)「地域で暮していくために～放デイでの取り組み～」
15:00～15:10	休憩
15:10～15:50	助言者コメント・質疑応答
15:50～16:00	閉会・まとめ

・基礎講義	新田 初美 氏	(新潟医療福祉大学 特任教授 小児科医)
・実践発表Ⅰ	石山 玲子 氏	(児童発達支援センターさんりんしゃ 所長)
・実践発表Ⅱ	中山 一樹 氏	(放課後等サービスおひさま 児童発達支援管理責任者)
・助言者	加藤 哲文 氏	(上越教育大学 教授)
・進行	東海林 織枝 氏	(太陽の村 園長補佐)

第5分科会 「自閉症者支援の人材育成・定着を考える」
担当施設 めひの野園(富山)

【分科会主旨】

自閉症者の支援をするにあたり、専門的技法をもとにした支援は欠かせない。また、私たち支援者が果たすべき役割と責任の重さは増しており、それを担う職員の育成が課題となっている。さらに福祉業界全体の人材不足もますます加速していくことが予想され、モチベーション研修など人材の確保、定着に向けての対応が迫られている。この分科会では、人材育成をキーワードに先進的な取り組みを報告いただき、専門的支援そのものが職員の資質向上や動機づけそのものであること、チームプレイを通じた組織力向上につながることを確認したい。そして、明日からの実践に元気が得られるよう、様々な視点から魅力ある職づくり、人材育成について考えてみたい。

【タイムスケジュール】

13:00～13:10	開会・分科会趣旨の確認と進行について
13:10～13:50	実践発表Ⅰ(40)「みんなで学び合う人材育成(強度行動障害のある方の地域生活支援)」
13:50～14:30	実践発表Ⅱ(40)「支援者を支援する人材育成(スーパーバイザー養成研修)」
14:30～14:45	休憩
14:45～15:50	助言者コメント・質疑応答
15:50～16:00	閉会・まとめ

- ・実践発表Ⅰ 平野 貴久 氏 (高槻地域生活総合支援センター 部長)
- ・実践発表Ⅱ 五十嵐 猛 氏 (大分県発達障がい者支援センターECOAL センター長)
- ・助言者 八尾 稔啓 氏 ((有)エイ・エル・ピー 代表取締役)
- ・進行 東 正盛 氏 (うさか寮 施設長)

当施設・事業所と利用契約されている利用者の保護者の方で、大会参加ご希望の方は、別途9月2日までに、あさけ学園事務所にお問い合わせください。

1.1. 申し込み

株式会社 JTB 関東 法人営業新潟支店

【第31回全日本自閉症支援者協会研究大会】 係

別紙申込用紙に必要事項をご記入のうえ、FAX または郵送にてお申し込みください。

~~〆切 平成29年9月29日(金)~~

FAX03-5396-8140 E-mail : niigata-mice@jbn.jtb.jp

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-23-14-6F JTB ビジネスネットワーク内
(営業時間) 月～金曜/9:30～17:30、土・日祝祭日/休業

※参加費等の入金後、参加券等を送付いたします。

10月末までに参加券の送付がない場合には事務局までお問い合わせください。

第31回全日本自閉症支援者協会研究大会(新潟大会)

参加登録・宿泊・交通のご案内

この度「第31回全日本自閉症支援者協会研究大会」にご参加されます皆様方の参加登録、宿泊、交通手配をJTB関東 法人営業新潟支店にて斡旋させていただくことになりました。

つきましては、下記のご案内をご一読いただき、別紙「申込書」に必要事項をご記入のうえ、お申込みくださいますようお願いいたします。

■ お申込みの流れ

別紙「申込書」に必要事項をご記入いただき、~~9月29日(金)までに~~、JTB関東 法人営業新潟支店 MICEデスクへ、E-mail・FAX・郵送にてお申込みください。10月中旬より、順次、参加確認書、請求書及び必要書類をお送りいたします。お申込み後の変更は、申込書を修正のうえ、E-mail・FAX・郵送にてご連絡ください。

■ 研修会参加登録

参加費 両日参加 会員:7,000円 非会員:8,000円

1日参加 会員:4,000円 非会員:5,000円

昼食弁当:11月2日 1個:1,000円

情報交換会:11月1日(水) ANAクラウンプラザホテル新潟 3F 飛翔の間 18:40～ 参加費:8,500円

■ 宿泊のご案内 ※各料金はお一人様あたり1泊朝食付・税サ込の料金になります。

宿泊期間:2017年10月31日(火)～11月2日(木)

宿泊ホテル名	宿泊料金/部屋タイプ				アクセス (新潟駅)
	シングル	申込記号	ツイン	申込記号	
ANAクラウンプラザホテル新潟	11,500円	1-S	10,500円	1-T	徒歩10分
ラマダホテル新潟	8,500円	2-S	7,500円	2-T	徒歩3分
新潟第一ホテル	7,500円	3-S	—	—	徒歩5分

★本総会宿泊手配(上記宿泊施設)をご依頼いただいた場合、募集型企画旅行契約となります。

★ご希望のホテルが満室の場合は、他のホテルをご案内いたします。

★最少催行人員:シングル1名 ★添乗員:同行致しません。

■ 航空券・JR券のご案内

ご希望により、各地から新潟までの交通(航空券・JR券)の手配を承ります。

申込書の備考欄にご記入ください。手配後、回答いたします。

尚、航空券手配をご希望の方は、年齢をご記入ください。

■ 取消料

ご参加者様の都合により、宿泊をお取消される場合は、下記の取消料を申し受けます。

取消日(旅行開始日の前日から起算して)	取消料
8 日前まで	無料
7 日前～2 日目	宿泊代金の 20%
旅行開始日前日	宿泊代金の 40%
旅行開始日当日(旅行開始前)	宿泊代金の 50%
旅行開始後または無連絡不参加	宿泊代金の 100%

申し込みの際には、旅行条件書(全文)をお受け取りいただき、必ず内容をご確認のうえお申し込みください。

ご旅行条件(要約)

●募集型企画旅行契約

この旅行は㈱JTB関東(埼玉県さいたま市中央区新都心 11-2)観光庁長官登録旅行業 1578 号。以下「当社」というが企画・実施する旅行であり、この旅行に参加されるお客様は当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」という)を締結することになります。また、旅行条件は、下記によるほか、別途お渡しする旅行条件書(全文)、出発前にお渡しする最終日程表と称する確定書面及び当社旅行業約款募集企画旅行契約の部によります。

●旅行のお申し込み契約成立時期

- (1) 所定の申込書に所定の事項を記入し、下記のお申込金を添えてお申し込みください。お申込金は、旅行代金お支払の際、差し引かせていただきます。
- (2) 電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段でお申し込みの場合、当社が予約の承諾の旨通知した翌日から起算して 3 日以内に申込書の提出と申込金の支払いをしていただきます。
- (3) 旅行契約は、当社が契約の締結を承諾し、申込金を受領したときに成立するものとします。

●旅行代金のお支払い

旅行代金は旅行出発日の前日からさかのぼって 13 日目にあたる日より前(お申し込みが間際の場合は当社が指定する期日までに)にお支払いください。また、お客様が当社提携カード会社のカード会員である場合、お客様の署名なくして旅行代金、取消料、追加諸費用などをお支払いいただくことがあります。この場合のカード利用日は、お客様からお申し出がない限り、お客様の承諾日といたします。

●取消料

旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除される場合は、宿泊要項記載の取消料を申し受けます。

●旅行代金に含まれるもの

旅行日程に明示した運送機関の運賃・料金(注釈がないかぎりエコノミークラス)、宿泊費、食事代、及び消費税等諸税。これらの費用は、お客様の都合により一部利用されなくても原則払い戻しいたしません。(コースに含まれない交通費等の諸費用及び個人的費用は含みません。)

●個人情報の取扱について

当社は、旅行申込の際に提出された申込書等に記載された個人情報について、お客様との間の連絡のために利用させていただくほか、お客様がお申し込みいただいた旅行において運送、宿泊機関等の提供するサービスの手配及びそれらのサービスの受領のための手続きに必要な範囲内で利用させていただきます。

●旅行条件・旅行代金の基準

この旅行条件は 2017 年 6 月 1 日を基準としています。また、旅行代金は 2017 年 6 月 1 日現在の有効な運賃・規則を基準として算出しています。

■ お問い合わせ先・連絡先

JTB 関東 法人営業新潟支店 MICE デスク

「第 31 回全日本自閉症支援者協会研究大会」係

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-23-14-6F JTB ビジネスネットワーク内

TEL : 03-5949-1353 FAX : 03-5396-8140 E-mail: niigata-mice@jbn.jtb.jp

営業時間 : 9 : 30 ~ 17 : 30 (土・日・祝祭日休業)

第31回全日本自閉症支援者協会研究大会(新潟大会) 申込書

【新規・変更・取消】 申込日 月 日

所属先 勤務先								申 込 代表者		フリガナ						
送付先住所		〒 _____						(勤務先・自宅)		T E L : _____		F A X : _____				
	ふりがな		参加区分	大会参加内容					昼食弁当	情報 交換会	宿泊申込					
	氏 名	性別 年齢		両日参加	1日参加 11/1	1日参加 11/2	11月2日 分科会				11/2	11/1	ホテル希望		宿泊日	
例	にいがた 新 潟	たろう 太 郎	会 員 非会員	○			第1 希望	第2 希望	○	○	第1 希望	第2 希望	10/31 (火)	11/1 (水)	11/2 (木)	新潟 花子
1			会 員 非会員													
2			会 員 非会員													
3			会 員 非会員													
※備考欄 (交通手配、その他ご要望等がございましたら、ご記入ください。)								【お申込先】 JTB関東 法人営業新潟支店【第31回全日本自閉症支援者協会研究大会】係 TEL:03-5949-1353/FAX:03-5396-8140 E-mail:niigata-mice@jbn.jtb.jp 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14-6F JTBビジネスネットワーク内 (営業時間)月～金曜/9:30～17:30、土・日祝祭日/休業								

※記入後、この用紙をコピーして保管ください。※人数が3名様以上の場合、この用紙をコピーしてご利用ください。